

千代田界隈のレトロな風景



2016/06/22

暮しの手帖の表紙絵

出版社に入社したと姉ちゃんたちが作った雑誌。
創刊当時（昭和24年）の表紙に使われた絵です。

（ヘルパーステーション事務所）

国政選挙で有権者が重視する政策は「医療や福祉の充実」が常に上位にある。消費税アップが延期となりこの財源をどうするのか政治家の腕の見せ所になる時。肝心の麻生財務大臣の破廉恥な発言が報じられた。「九十になって、老後が心配とか訳のわからないことを言っている人がテレビに出ていたけれど『お前いつまで生きるつもりだ』と思うながら見ていました。」（の、100毎日、原文）この人は失言で有名と言われているがこれからの日本の持つて行き方としてわざとやっているのかも知れない。今度の選挙でこのような人と、取り巻きたちがやっぱり天下を取るといふことになりませぬように。

NHKの朝の連続ドラマ、今回も毎日楽しみに見えています。主人公は生活総合雑誌「暮しの手帖」を創刊した大橋鎮子さんがモデル。戦時下の物不足の時代に生活を楽しむ、潤いのあるものにして行くことを目標に編集され、現代にも引き継がれている雑誌です。ドラマは大橋さん役の「と姉ちゃん」が出版社に就職したところにさしかかりました。名物編集長と言われた花守安治氏の変人ぶりも合わせてドラマの展開に注目していきましょう。ところで上に掲げた写真は暮しの手帖の表紙になった絵です。何年か前に気に入って事務所に貼っておいたものです。改めてみてみるとすごい絵だともいいます。部屋の中に置かれているものが全ておしゃれで上質なものでばかりです。まずオルガンがあることがすごいことだと思えます。次に大きな本棚があること、棚には全集ものらしき書籍がきちんと並んでいます。左下の電気スタンドはランプにも見えます。自分の部屋に楽器と本がある。憧れの生活空間です。すごいことの極めつけはこの表紙の暮しの手帖が発行されたのは1949年（昭和24年）ということなんです。日本は貧しく、オルガンは小学校の音楽室で、小説や文学全集などはなかなか買ってもらえなかった時代です。その時代に編集者たちが提案したかったこと・・・。ドラマはどのように描くのでしょうか。

人・ひと日記

小林 功

み
ど
り
の
風

2016.7.1

-NO.214-

発行 社会福祉法人悠朋会
相模原市中央区千代田2-4-1
千代田ティサービスセンター
042-751-0672
ヘルパーステーション千代田
042-704-0261
千代田介護支援センター
042-704-0281
千代田相談支援センター
042-707-1434

ホームページアドレス

www.yuhokai-kaigo.com



主に月2回、月曜・木曜の余暇活動で書道教室を開催しています。普段字を書く機会が減ってしまっていますが、ボランティアの古田先生に指導を受けながら一生懸命作品作りに励まれています。多くの方が毎月参加され腕を上げています。

ボランティアさんのご紹介



古田扶桑子さん
出身：相模原市上溝

ボランティアで元気いただいています。免許取得して13年のブランクがあり一から勉強しなおしたくあじさい大学に入学しました。終了後は月2回のサークルで修行中です。習字のボランティアを始めて2年目になりますが、利用者の方々の何気ない一言や笑顔に毎回感動し励まされつつ楽しんでいきます。

市民交流スペースのご案内

6月の展示内容 三浦珠光 刻字展



6月の展示は、デイサービスのご利用者さんである阿子島チイの娘さん、三浦洋子さんによる刻字展を行いました。

刻字とは書で書かれた文字を彫って立体的にして彩色したもので、書家としての腕前と彫刻家としての技量が必要とされる大変高度なものです。三浦珠光と号し、先生としてお弟子さんを取られる程の腕前で、近くのギャラリー”スペース游”でも6/15～26に個展を開催されました。

東日本大震災後には現地へ赴き、被災された方へも指導され、幅広い分野で活躍されています。

市民交流スペースは無料で展示が行なえます。出展希望の方は千代田デイサービス 042-751-0672 まで

余暇活動：クラフト（ステンシル / 七夕飾り作り）



余暇活動のクラフトは、年間を通し様々な手芸の作品作りを行っています。今月はステンシルによる作品作りを行いました。ステンシルとは型紙の模様を切り抜いた部分に染料や絵具を摺り込んで染色するものです。今回はカバンやガーゼハンカチに、好きな模様思いの色を摺り込んで頂きました。出来た作品はお持ち帰り頂きましたが、さっそくデイに持ってくる荷物を入れて持ってきてくれる方もおられました。今後も色々なクラフトメニューを考えていきます。材料代はかかりませんので興味のある方はどんどん参加してみてくださいね。



今月は7月に七夕会を行うために大きな吹き流しも制作しています。平塚の七夕まつりにも負けない位？立派なものが出来ると思いますので楽しみに!!

7月の予定

七夕	1日（金）～ 7日（木）
キーボード演奏	3日（日）
交流会	4日（月）、 5日（火）
体重測定	4日（月）～10日（日）
ハーモニカ演奏	8日（金）
シナプソロジー	11日（月）、28日（木）
書道	18日（月）、21日（木）
クラフト・紙粘土	22日（金）
誕生会	25日（月）～31日（日）
民謡	26日（火）



熊本DPAT災害派遣福祉チームでの活動報告(益城町総合体育館)

ヘルパーステーション千代田 渡辺 真由美

神奈川県からの要請があり5/5～5/10の間、熊本県DCATの支援活動に参加させて頂くことができました。

飛行機で阿蘇熊本空港に着いた時、飛行機からの景色は、手の平サイズの田畑がいくつも並ぶ中に住宅が点在するものでした。その殆どの屋根に青いブルーシートが掛けられているのを見て“ここで大変な事が起こっている”と実感しました。

空港からの市街地は大きな損傷はなかったのですが、車で20分ほどの益城町に近づくにつれ道路の変形や亀裂、信号機の故障、建物の崩壊とテレビで報道されている様子へと変わっていきました。震度7の地震を2回も経験された地元の方々は「サッシの鍵は外れ窓が開いた」「建具も網戸も外れた」「便器が飛んだ」「ベットがトランポリン」「電信柱の周囲20cm程がえぐれた」などと話して下さいました。瓦が落ち、壁が剥がれ、食器棚や本棚も倒れ、自動販売機やエアコンの室外機も倒れている。激しい揺れと共に音の恐怖もあったそうです。支援活動の拠点である益城町総合体育館周辺では未だ水道が使えない状況でした。飲食は支援物資で賄えても、下水道に汚水が流せない事が大きな問題となっていました。

今回、参加させて頂いた中で感じた事は“地域の繋がり”が重要だという事でした。

誰もが初めて経験する災害が起きた時、個人個人が身の回りの事で精一杯になります。

災害支援の活動も1～3日は稼働できない状況で、その間は家族やご近所の方々と協力をしながら過ごさざるをえないと思われます。次に市を交えた支援者が状況を確認しながら避難所の整備をしていく…DCATの代表が「よそ者では話が決まらない。地域が中心になって動かなければ」とおっしゃっていたのが印象的でした。



千代田デイサービス 近石良太

熊本地震による被害を受けた方々を支援するために6/6～13に熊本県益城町に行ってきました。

益城町は地震の被害が1番酷く、地面の地割れがひどく、家も全壊や屋根が壊れブルーシートで覆われている家が多く見られました。

今回の派遣は熊本県災害派遣福祉チームDCATの一員として支援活動を行いました。

各地から派遣された方と地元熊本県の方とペアを組み、10か所近くある避難所を4チームに分かれて各避難所を回り、支援を行いました。

避難者の方のほとんどは自立されている方が多かったですが、避難疲れで弱ってきている方も出てきていました。

活動内容としては主に入浴、買い物や通院への付き添いなどでした。

地震から1カ月以上経ち疲れてきている状況にも関わらず私に快く接し、方言を聞き取れず何度も聞き返したり、会話も中々かみ合わなくても優しく接してくれる方ばかりでした。

今後も出来る限り支援を続けていきたいと思いました。



編集後記

西門でまぐろ中落ちとブリ、カツオの刺身を買ってビールを飲みました。父の日の前祝いです。父の日はお寿司を食べました。幸せでした。五月の母の日に何も催しをしなかったことを反省し、来年こそは妻に良い物を食べさせてあげようと思います。 H